

シンガポール・マリーナ湾散策（フォトエッセイ）

著者	早川 和伸
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	265
ページ	25-28
発行年	2017-10
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00049689

シンガポール・マリーナ湾散策

写真・文 早川和伸

Kazunobu Hayakawa



マリーナ湾

シンガポールにおける観光の中心部、マリーナ・ベイ・エリアは日々変化している。本エッセイでは、このマリーナ湾を1周してみたい。やはりマーライオンからスタートすべきであろう。早朝から水を吐き出しているため、夜行便で早朝にシンガポールに着いた観光客がまず向かう場所のようで、朝から多くの観光客が集まっている。マーライオンから吐き出される水を飲んでいるように写真を撮るのは、もはやお決

まりである。夜になるとマーライオンもライトアップされ、後述するマリーナ湾南側の摩天楼の夜景と一緒に写真を撮れる。普段はただ白色でライトアップされるだけであるが、年に数回、このマーライオンにプロジェクション・マッピングが施される。色使いにギョッとすることもあるが、普段はどちらかというとライオンっぽいマーライオンも、このときはマーメイドっぽい気がするかもしれない。

南向き（反時計回り）に湾を回ろう。シンガポールの中でも指折りの高級ホテル、フラートン・ベイ・ホテルを通過し湾の南側に着くと、シンガポール最大の金融街が広がっている。地上60階程度の高層ビルがまさに乱立している。この南側では主に、会社帰りの女性達を中心に、エアロビクス、ヨガなどが行われている。エアロビクスの先生がだいたいおネエ系なのが気になるが、皆思い思いにストレス解消を行っている



カラフルなマーライオン

ようである。さて、南側から東側に向かうと、日本でも有名なマリーナ・ベイ・サンズ・ホテルが右手に現れる。その手前のスペースでは、「Ultra Singapore」というクラブ音楽の祭典や、様々なフードイベント、そして2017年7月からはシルク・ドゥ・ソレイユの「KOOZA」も開催されている。

この湾東側の目玉の1つは、每晚開催されている水と音楽、ライトを使ったショーであろう。2011年2月から開催されていた「Wonder Full」というショーが、2017年4月をもって約6年の歴史にピリオドを打った。そして2カ月間の準備を経て、6月より「SPECTRA」という新しいショーがスタートした。マリーナ・ベイ・サンズのウェブサイトによると、多民族・多文化国家であるシンガポールが、いくつかの困難と挑戦を乗り越え、今ある世界都市として変遷してきた過程と歴史、そして未来を描き出しているそうだ。4部構成と



青白く光るマーライオン

なっており、第1・2部ではシンガポールの社会、複雑な歴史とその文化的背景を比喩的に描き出したビジュアルが現れ、第3・4部ではこれからの未来を見据え、これまで以上に活力と可能性を感じさせる、シンガポールが目指す未来のイメージを描いている。特筆すべきは、途中、坂本龍一氏の「戦場のメリークリスマス」が使用されていることである。1983年に公



金融街の夜景



SPECTRA

開かれた映画の中でも非常に印象的に使用されている楽曲が、2017年のシンガポールの夜のショーで、水のスクリーンに映し出された美しい万華鏡の映像と共に使用されている。

このショーを、湾の東側で水のスクリーンに映し出された映像を見ながら楽しむのも良いが、もう1つのオススメは対岸である西側、すなわちマーライオン付近から見ることである。西側から見ると、マリーナ・ベイ・サンズ・ホテルの屋上から出ているレーザービームや、音楽に連動して色が変わっているショッピングモールの屋根も満喫できる。写真を撮ることを優先するならば、ザ・シンガポールな夜景を撮れるので良いかもしれない。

最後は湾の北側である。ここには地元で「ドリアン」という愛称で呼ばれている、「エスプラネード・シアターズ・オン・ザ・ベイ」という複合施設がある。コ



水のスクリーンに映し出される万華鏡

ンサートホール、演劇ホールが一体化された施設であるが、屋外にもイベントスペースがある。ほとんど毎週末、シンガポールにゆかりのあるミュージシャンだけではなく、アジア各国からのバンド、ユースオーケストラによる音楽等、様々なイベントが開催されており、だれでも無料で楽しむことができる。屋外ではあるが大きな屋根に覆われ、音響・照明機材も完備されているので、ほとんど天候に左右されない。屋内のコンサートでは未就学児童の入場が認められないことが多いが、この屋外スペースにおけるイベントでは、子供連れで楽しむ家族も多くみられる。

資源がほとんどないシンガポールにおいて、観光に重点を置いた都市開発を進めていた国の政策は大成功し、マリーナ湾には1年を通して多くの観光客が押し寄せている。年末・年始のカウントダウンや、8月9日の建国記念日などには、大規模な花火も打ち上げら



対岸から見たSPECTRA時のマリーナ・ベイ・サンズ



同じくマリーナ・ベイ・サンズ



ドリアン型の複合施設



屋外イベント



年末・年始のカウントダウン花火大会

れる。またマリーナ・ベイ・サンズのさらに東側には、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイという植物園があり、こちらでも毎晩、音楽に合わせて植物がライトアップされる、ガーデンラブソディというショーが行われている。このエリアにはまだ空き地と becoming ところもあり、これから大規模な開発がされていく予定だそう。これからもますます進化するマリーナ湾から目が離せない。

はやかわ かずのぶ／アジア経済研究所 在シンガポール海外派遣員

2008年アジア経済研究所へ入所。2016年9月からシンガポールの東南アジア研究所（ISEAS）に赴任。



ガーデンズ・バイ・ザ・ベイにおけるガーデンラブソディ